

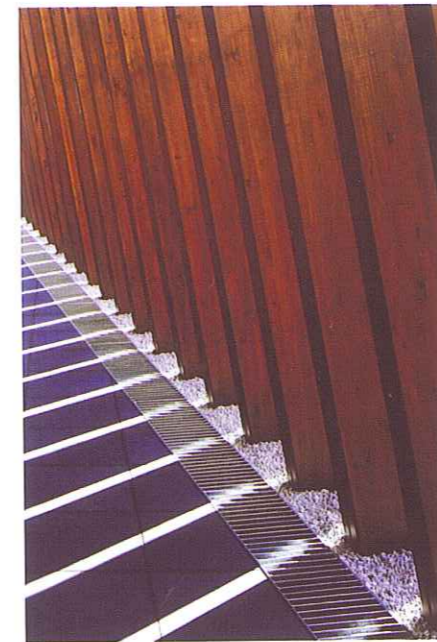
周囲の木々がガラスに映りこみ内部の木ルーバーと融合した様相を映し出す



木柱と木梁のジョイント



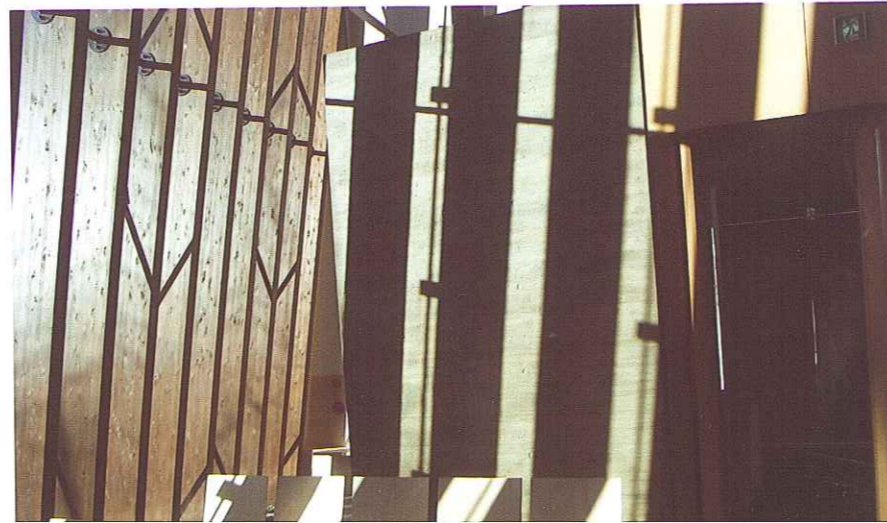
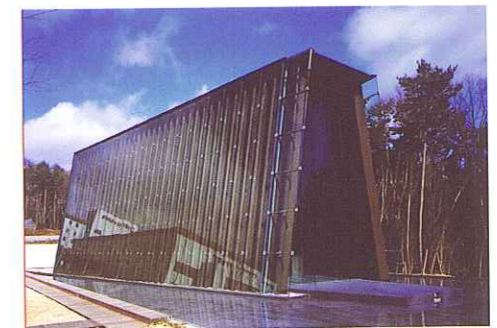
MPG工法のガラスを支える木柱



赤松集成材柱の足元

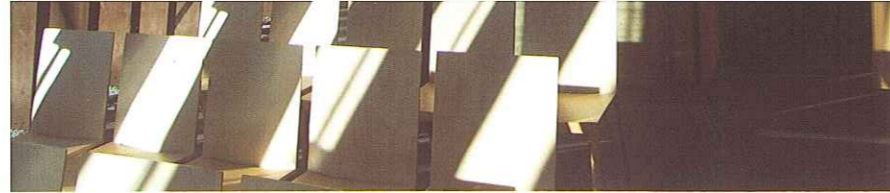
八ヶ岳の教会

木々と自然がもたらす変容する空間





木ルーバーに映り込む周囲の木々の影のざわめき



木ルーバーの光と影により変容する内部空間



設計趣旨

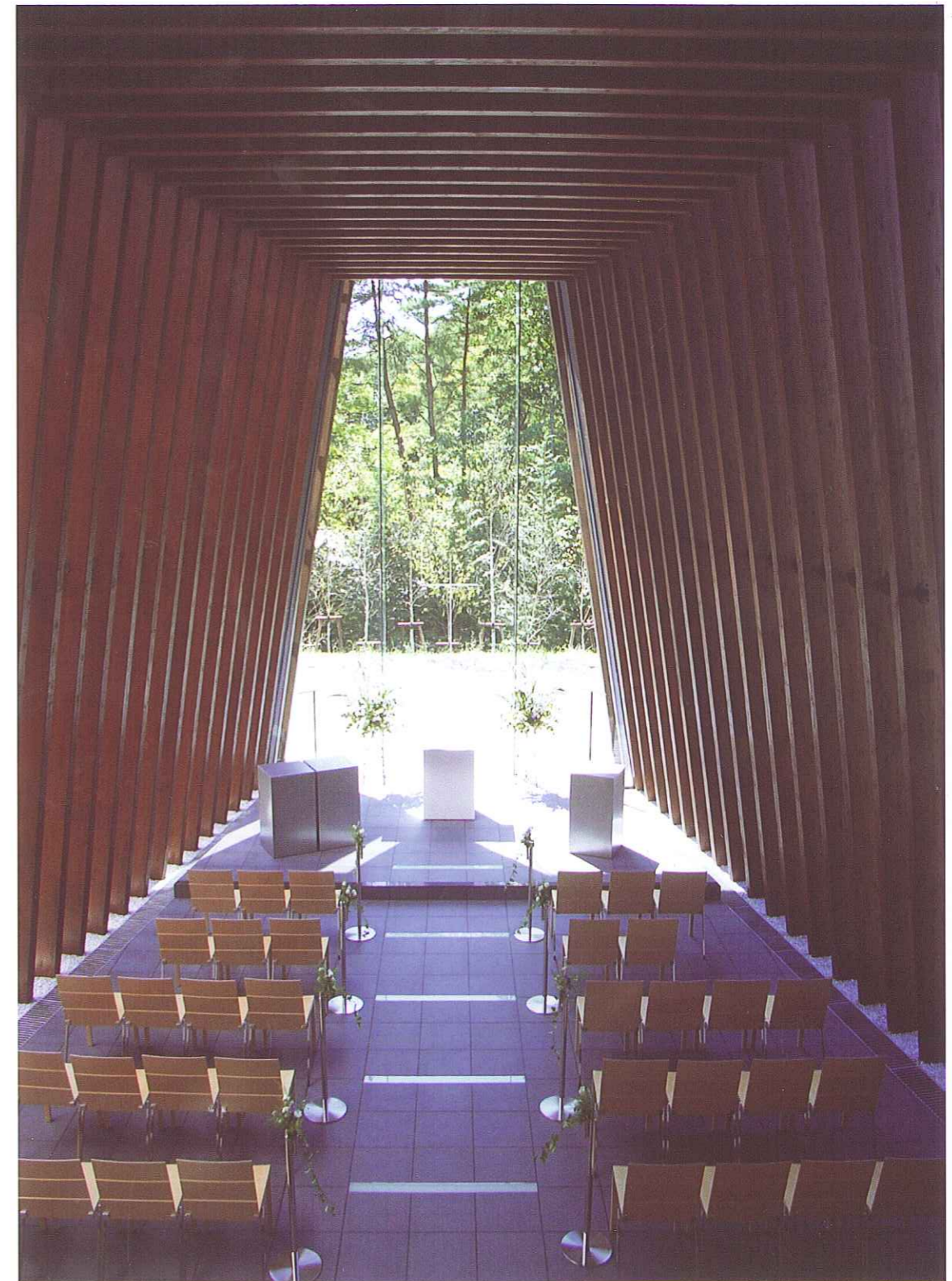
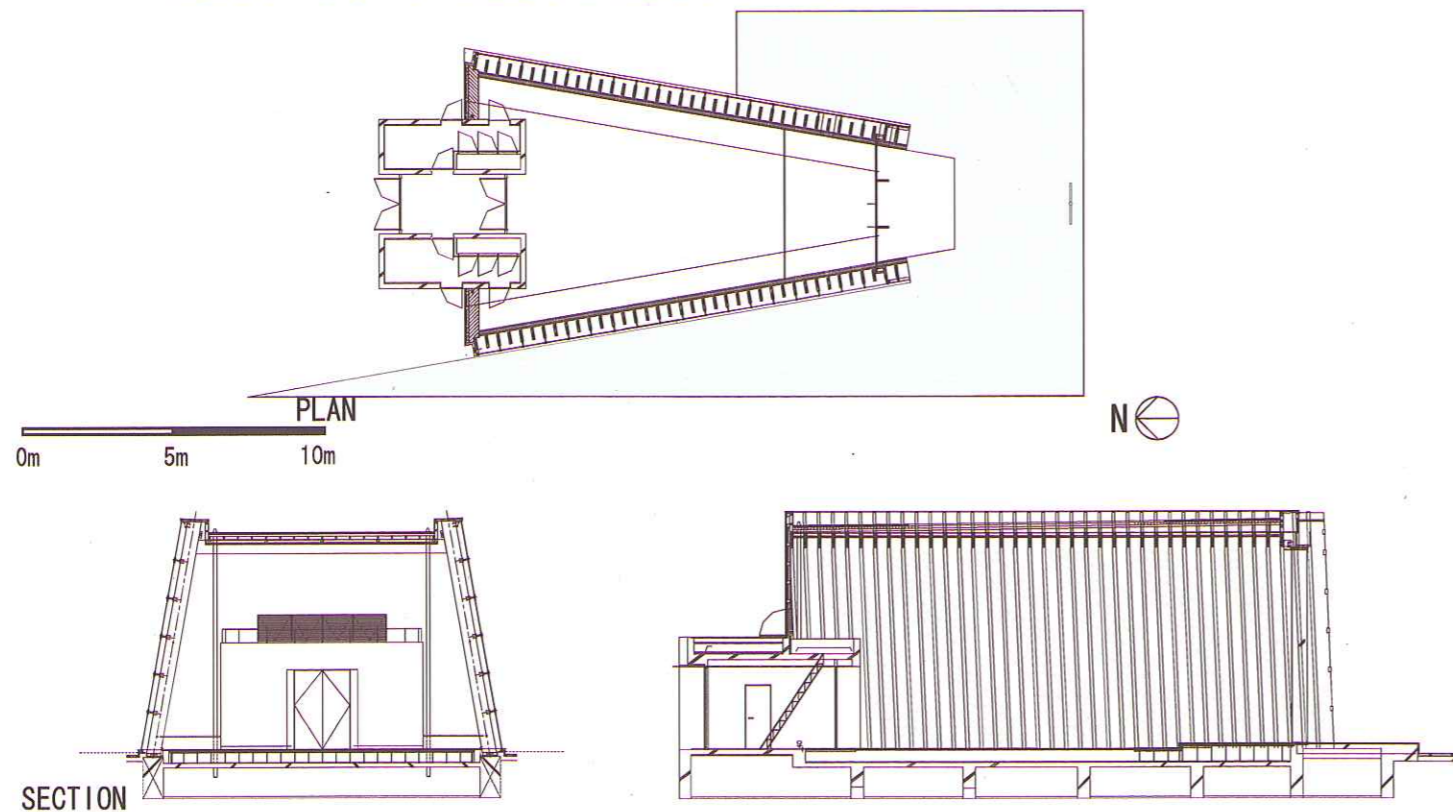
リゾートホテル敷地内にある結婚式のための教会である。敷地は八ヶ岳の裾野に広がる緑豊かな森林に位置し、南には富士山が望める。建築の構成は八ヶ岳周辺の森林を内部空間に効果的に取り込み、構造体が空間を演出することをコンセプトとし、木構造とガラスの構成が決定された。祭壇に向かって求心性を持ちながら、絞られた空間とガラスを通して祭壇越しに見える森林からの木漏れ日が森の中に抱かれているような心地よく柔らかな奥行きのある空間を創出している。

木ルーバー

構造体は450mm×105mmの集成材が450ピッチで反復された柱と梁からなる木ルーバーで構成され、ガラスの内側にバックマリオンとしての機能も果たす木ルーバーは直接光を遮ると同時に、床に太陽の動きとともに変化する光と影を落とし変容する空間を与える。またそれらはガラスとタイルの床により反射される音を吸音し神父の声やミニコンサートで使用する際の音楽を明瞭に聞き取れる役割をも担っている。

外皮

外皮には厚さ19mmのガラスをMPG工法により集成材に立て掛けるように取り付け、「ガラス（工業製品）と木（自然素材）」という対比素材をMPGによりシンプルなディテールで構成することにより心地よい空間でありながら教会としてふさわしい緊張感と静寂性を与えている。



木ルーバーによって柔らかく囲まれた空間